

14 オルガン管の共鳴

(島先宏充)

あらかじめオルガン管を吹いて音叉の振動数と同じ高さの音が出るようにしておき、つぎに音叉をオルガン管の吹き出し口に近づけるとよく共鳴する。ピストンの位置を変えると共鳴しなくなる。このことから、空気の摩擦音（雑音）の中から選ばれた振動数のみ強調されて楽音が出ることが説明できる。

